



記号と色と記憶

札幌の繁華街のビルの5階に位置する6坪ほどの小さな飲食店のインテリアデザインである。小空間でローコストではあるが集客に貢献できる建築の可能性を模索した。6坪の約半分が厨房スペースとなり残り半分が客席スペースとなる。厨房を囲うようにL型にカウンターを配置し、その奥に4人席としても使える空間をつくる。飲食店は結局のところ食事内容やサービスの質で集客が決まるのだが、空間体験の記憶を臚げに残すことも集客の貢献につながると考えた。そこで記憶に定着しやすい記号と色をつかうことを考えた。半円、円、むくった柱、あわい緑色を空間の中にささやかにちりばめた。これらが記憶の補助線となり繰り返し空間へ誘うキッカケになればと考えている。

